

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370103271		
法人名	社会福祉法人 淳風福祉会		
事業所名	若宮園グループホーム		
所在地	岡山市南区箕島3566-1		
自己評価作成日	平成 29 年 11 月 22 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;igiyosyoCd=3370103271-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;igiyosyoCd=3370103271-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 29 年 12 月 6 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご利用者が定期的に地域行事等に参加を続け、地域の小学生や学童保育、中学生の福祉学習で実際にご利用者とふれあう事や、ボランティアを通じて、少しずつ施設の役割の理解や、良いイメージを持っていただいていると実感している。施設の立地は不便な所ではあるが、桜やモミジ、イチヨウなどがあり、四季を感じながら、野鳥などいる所で静かに生活ができる環境となっている。  
 ・ご利用者に、昼食作りやおやつ作りに積極的に参加して頂き、包丁を使用して食材を切ったり、味見や盛り付け、片付けなども願っている。同一敷地内の管理栄養士が考えたメニューを基本に、ご利用者の地域や季節に合ったメニューを取り入れ、健康管理の面だけでなく、楽しみを取り入れた食事作りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者個人や仲良しグループに配慮して、少人数での外出支援を出来るだけ多く行なえるように努めている。近隣グループホームの管理者と2~3ヶ月に一度集まり交流を図っており、一緒に作品を作成し公民館に展示したり、春のさくら祭りにはテントを設置し、グループホームの説明を行うなど、地域に理解され地域に根付く事業所となるように努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	WEB経由で法人内の情報共有が出来るシステムのトップ画面に、法人の理念と基本方針がのっており、パソコンでシステムを起動する度に目に入るようになっている。その他、事業所の方針と実践目標は目に入りやすい所に掲示して、意識したケアを心がけている。	玄関入口と詰所に理念を掲示している。また、パソコンを開くとトップ画面にも出るように工夫しており、業務の折りに触れている。新人には入所時、所長が理念を説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加を継続して行っており、地域の方々も定例化してきた事で、積極的に協力体制を作って下さっている。近隣のグループホームと協働し、地域の公民館とふれあいセンターにて合同作品展も継続して行っている。	春の桜祭りでは近隣のグループホームと合同で利用者が作成した作品を展示したり、グループホームの紹介を行ったりしている。また、地域の方の協力の下、鯉のぼりフェアでは親子クラブとプレゼント交換を行うなど、様々な形で地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の学童保育や小学生、中学生の福祉学習で高齢者や認知症について講座だけでなく、直にふれあう事で、理解を深める機会を設けている。学生と利用者様とを仲介する事で、職員の良い刺激にもなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所から行事や運営状況の説明と、報告を行った後に、地域の委員の方と地域の情報や地元の状況について意見交換を行っている。	地域包括、民生委員、家族の代表者などが参加して、3ヶ月に一度運営推進会議を開催している。民生委員から地域の行事やイベント情報をもらい、利用者と一緒に参加している。	家族の参加が増える様、今後の関わりに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度上の不明な点などは、市町村の担当の課へ、その都度質問を行っている。生活保護を受給している方がおり、福祉事務所の方の訪問やご家族と共に情報提供など行っている。	毎回、地域包括へ運営推進会議の参加案内を手渡ししている。市から届く研修の案内には出来るだけ参加している。研修参加後は回覧し、職員で共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	若宮園で定期的に関催されている勉強会に参加して理解を深めている。玄関の施錠に関しては防犯、離脱と交通事故の面から行っているが、出たいサインがあった時は、できるだけ希望に沿って職員が同行して外へ出るようにしている。	年1～2回内部の勉強会に参加している。また、数年に一度、全職員参加型の勉強会も開催している。身体拘束にならないようにその都度、職員間で話し合いを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年全体研修で取り上げた虐待を思いだしながら、ニュースで高齢者虐待の事が取り上げられた時は、職員同士が話をする事で、自らを振り返りながら注意喚起に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	若宮園で定期的に行われている勉強会に参加し、制度や必要性に関して理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や解約時には、契約書や重要事項説明書などの資料をもとに、理解しやすい表現で説明するように心がけている。制度や料金に改定があった場合は、個別に書面だけでなく面談や電話にて説明を行い、同意書の提出をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者へは担当職員が中心になって要望などを伺い、ご家族へは面会時や年2回の家族会や、報告時の電話などで意見を聞くようになっている。指摘事項などに関しては記録を行い、対応などは具体的に改善できるよう迅速に考え、職員で共有できる記録物に記入して情報共有を行っている。	長谷川式認知症スケール後などに、さりげなく意見や要望を聞いている。意思疎通の困難な人にはどんな時に機嫌が良いか悪いかを予測して判断している。聞いた意見や要望は、利用者の申し送りノートに記入し、職員で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課制度の年2回の個別面接に加え、日々のコミュニケーションを通して、提案や改善について、管理者から聞くようになっている。出された意見は行事や日々のケアに反映している。	年2回、所長と面接をしている。評価表に自分が行った事、次の改善や仕事の目標、面接時に言ったことなどを記入しており、理事長まで意見や要望が届いている。業務中、所長が職員と2人きりになった時、いろんな事を聞くように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経歴や得意分野を考慮して、今まで管理者が行っていた一部の業務分掌もやっている。職員間で不得意な事もフォローできる関係作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修の参加には至っていないが、中途採用の職員でも技術だけでなく、知識を学ぶ研修が若宮園全体であり、力量に合った必要な講義を受けられる体制がある。それとは別に技術などについて全体の研修も行っており、今年は「摂食嚥下」についての勉強会を全員受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームだけでなく、地域の方の仲介があり、小規模多機能型居宅介護の管理者の方と今年からそれぞれの施設を会場にして定期的な管理者会議を設けている。地域行事や合同作品展を通して、職員間の交流もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談を行う時に、必ずご本人と会い生活歴や現在の生活状況や趣味、嗜好などについて伺うようにしている。必要であれば面談の回数を増やしたり、実際に施設に来て頂いたりして、不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や入居前に、具体的なサービスやケアの内容、方法について説明を行っている。あと、今までの生活でご家族側からの不安などがあればお聞きして、今後のサービス、ケアの参考にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時や面会時にご本人やご家族の思いや要望などを改めて確認し、改善に向けた適切なケアの方法や介護保険サービスを分かりやすく説明している。必要があれば法人内だけでなく、他事業所について説明とご紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔のその土地土地の歴史や出来事、習慣などを聞きながら、料理のメニューに取り入れて、作り方などを教わっている。裁縫などは、型紙の取り方、裁断、縫い方などをお聞きして参考にし、得意分野を活かし職員も交えて分担して取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の日々の生活状況について、具体的に分かり易く、面会時やカンファレンスや電話などでお伝えするようにしている。行事などの参加もお願いして、ご利用者の生活の向上の為に、ご家族と職員が協働してケアなどにあたっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の住所に近い所である地域行事に積極的に参加して頂き、近所の方との交流ができる機会にしている。その他、祭りなどの行事の時に、ボランティアとして来て下さったり、知人や友人が訪問に来て下さったりしている。	家族や孫、親戚、近所の知人や友人などの訪問がある。また、家族の協力の下、馴染みの食堂に行く人もいる。利用者の知人が参加する地域行事の出演時間に合わせて参加するなど、関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や、得意分野や趣味などを考慮して、職員が仲介しながら、ご利用者同士が良好な関係を築けるように支援している。行事の外出支援は、仲の良い方同士で行けるように企画を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから他事業所へ移られた後も、出来るだけ訪問を行いご本人の健康状態や生活状況の確認に努めている。必要であれば、グループホームでの生活やケアの方法を生活の向上になるように伝達している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要望を直接聞くだけでなく、日常の会話や表情、行動から要望などを読み取り、ケアに反映させている。特に言葉では伝えられない方は、普段の観察を細かく行い、要望などを推測しながら笑顔が多くみられるよう努めている。	入所前に本人、家族から情報を聞き把握している。家族の思いも聞いた上で、トラブルの予測も伝えるようにしている。以前利用していた居宅のケアマネージャーや、他事業所からも情報を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族だけでなく、了承を得て、友人、知人、ご近所の方や、これまで利用していたサービスの職員から、当時の様子について情報を頂き、ケアの参考にさせて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の1日分の生活状況をA4サイズの紙1枚分に記録している。時系列で状況の把握ができ、1日の中で変化があった事が分かるような様式にして、ご利用者の把握に努め必要な部分を記録として残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の担当職員と管理者だけでなく、他職員(医療連携の看護師を含む)からも介護計画作成前に意見を伺い、相談の上で介護計画に反映している。	毎日モニタリングを行い、毎月まとめている。介護計画は3ヶ月に一度見直しを行っている。3ヶ月に1度のカンファレンスには家族にも来てもらい、所長や看護師も参加して開催している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の日誌には、健康面だけでなく、ご利用者の活動状況や言動についての記録するようにしている。その他情報共有の為に、申し送り簿も活用し、ケアの方法や介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近場の予定日以外の外出等は、真夏、真冬以外はできる限り対応している。ご家族にも、ご利用者の要望や外出時の不安解消について話をし、外出支援に繋がった事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域から孤立しないよう、地域行事の定期的な参加を行っている。他に運営推進委員、民生委員、他の施設の管理者等から、ご利用者に合った地域資源の情報収集を行いやすいよう、日頃から協力体制を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くのご利用者は要望もあり、利用開始時に協力医をかかりつけ医としているが、ご希望する医療機関へ受診する事も可能である。歯科は希望時に往診を行っている。	利用者や家族にかかりつけ医の継続は可能であることを伝えているが、協力医をかかりつけ医とする家族が大半を占めている。法人内の看護師と連携して医療面のサポートを行っている。看護師が定期的に訪問するだけでなく、何かあれば相談できる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特別養護老人ホームの看護師と24時間体制で連携をとっている。ご利用者の日々の状態については、申し送りノートや電話(内線、外線)等で報告、相談を必要時にその都度行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の生活相談員と連携をとり、電話や実際に面会して、状況や経過について把握を行っている。情報交換を密に行い、スムーズな退院に繋がられるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所相談と契約時に事業所で出来るサービスの範囲について説明を行い、重度化した場合や終末期の支援が必要となった場合は、改めてご家族と協力医等を交えて面談し、併設の施設や他のサービス事業所等の紹介を行い、納得がいくまで説明を行っている。	看取りは行っていないが、法人内での施設移動が可能となっている。利用者の体調や状態が悪くなった時には早急に医師、所長、家族と連絡を取り合い、今後について話し合いの場を設けている。年1回、法人内で研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	若宮園で定期的に行われている勉強会へ参加し、グループワークや演習などを交えて知識を深めている。急変や事故発生時のマニュアルはフローチャート式にした物を作成し、見えやすい位置に配置したり、申し送り簿の始めにはさんでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	若宮園全体で年に2回火災と地震とを想定した避難訓練があり、グループホームも参加している。災害発生時は、敷地内の施設間だけでなく、隣接する地域住民の協力も得られるようになっていく。	避難訓練と地震を想定した訓練を行っており、消防署の立会いもある。備蓄は法人内で2日分用意している。地域の訓練には参加できていない。	地域住民への参加呼びかけに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が法人全体の接遇委員に属し、勉強会の参加や新人研修の講師をし、プライバシー保護について日々気を付けている。難聴の方には状況に応じてわかりやすい表現を心がけ、敬語でなくとも不快にならないように気を付けている。	声かけ時、方言に気を付けながら、大声で言ったり、指差したりしないように配慮している。職員間での申し送り時には名前ではなく、他の言い方などで申し送りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が要望などを言いやすい雰囲気作りを心がけ、ご本人が発した言葉にとらわれず、普段の表情や行動などから、要望などを読み取るようにしている。できるだけ、認知症があってもご利用者自身で物事を決められるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりの体調や生活歴などを考慮して、生活のリズム作りに努めている。夜に寝られるように、日中は体操、レクリエーション、趣味、工作等を提案し、希望者にして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問の理・美容が、月1度若宮園に来る機会があり、希望者はカット、毛染めやパーマを行っている。化粧を習慣にしているご利用者が出来なくなってきた時は、継続して行えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は以前より継続してご利用者と職員が協働して行っている。実際に包丁を持って食材を切ったり、味見や盛り付けを行ったりして出来るだけ多くの方が関わられるようにしている。できない方にも視覚や嗅覚から食事作りが分かるように工夫している。	法人内の栄養士が考えた食事形態が、主に5種類あり利用者の状態にあった物を提供している。ユニット内では、毎食の主食の米飯と、昼食の普通食とやわらか食の副食を職員と利用者と協働で調理している。粥や軟飯、ムース食などの他の物は法人の厨房で調理された物を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調不良などで嚥下状態や食欲に変化がみられた時は、誤嚥に十分注意して介助や見守りを行っている。必要であれば、食事量を調整して、喉ごしが良い高カロリーのゼリーやジュースなどでカロリーを補って健康管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員毎食後、個々の部屋の洗面所で口腔ケアを行っている。義歯をしている方は、夕食後の口腔ケアの時に洗浄剤につけ、清潔を保つようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の記録物や申し送り簿から排泄パターンを把握し、ご本人の要望も踏まえて個々の時間でトイレ誘導を行っている。昼間は全員がトイレを使用して排泄している。	昼はトイレにて排泄の支援を行っている。夜間は睡眠を優先し、トイレやポータブルトイレ、パット、オシメなど一人一人に合わせた対応をしている。紙パンツの方が布パンツに変わるなど、改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ご本人の嗜好にあった牛乳などの乳製品を摂取し便秘の解消に努めている。便秘だけでなく、脱水などの為にも水分を多めに摂取して頂けるように促している。その他、体操や散歩などをして体を動かす機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本週3回の入浴を行い、曜日や時間にとらわれず、ご本人の状況に合わせて柔軟に対応している。入浴がお嫌いな方には、日時の変更や、入浴の担当職員だけでなく、他職員が協力して気が向くように促している。	冬場は週2回の入浴を支援している。基本、午後から入浴支援しているが、午前に行うなど柔軟に対応している。順番に配慮したり、入浴剤を使用したりして入浴が楽しめる様に工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の生活歴や要望、状況に応じて、就寝時間をかえている。日中は居眠りなどが続かず、生活リズムを整える為に、短時間の昼寝を設けているご利用者もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、ご利用者が使用している薬の効能、副作用について、ひと通り調べて理解をしている。服薬時は職員がご利用者一人ひとりに手渡すか、直接口に入れる介助を行い、最後に飲み込むまで確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の得意分野をいかして、食器洗いや食器拭きだけでなく、ガーデニングや裁縫などを行えるような機会を設け、役割を感じた生活ができるよう支援している。お好きな歌がある方には、1日のうちその歌を歌える機会を作って歌って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定例化している地域行事の参加に比べ、一人ひとりの趣味を考慮した行事計画をたて、外出支援をしている。今はご利用者同士の関係性を考慮して、少人数でゆったりとした時間が過ごせるように工夫している。	職員と一緒に少人数で外出したり、誕生日や敬老会などに合わせて家族と外食に出かけたりする人もいる。また、面会時、居室で家族と一緒に食事を楽しむ利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については、基本的には管理者がお預かりして、個人では持たないようにお願いしている。(ご利用者同士のトラブル回避の為)買い物などの外出時は、できるだけご利用者に支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者から電話して欲しいと言われる場合は、状況に応じて対応している。ご利用者が一人では相手の声が聞き取れない場合などは、職員が仲介している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールは、月に1度季節に合った壁紙などで飾り、季節感が感じられるように工夫している。その他、普段ご利用者が作られた塗り絵や、工作を見えやすい位置に掲示している。	廊下の壁やフロア内には縫物が得意な利用者による作品や職員と一緒に作成した季節の飾り付けが施されている。テーブルや席は利用者の状態に合わせて配置している。感染予防として、毎日空気の入れ替えを行っている。	ホールやトイレなどの共用空間の温度・湿度管理に期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの席は、トラブルにならないように、気の合う物同士で過ごすことができるような配置にしている。ホールはソファを3つ配置して、個々でも仲間同士でもくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前にご本人やご家族から、今まで生活していた状況を伺い、出来るだけ要望に沿ったお部屋作りをしている。入所後も、ご家族の写真などを持参して頂き、過ごしやすい空間作りをご家族と協力して行っている。	入居後、馴染みの物が増える様、家族に協力をお願いしている。家具等の配置は利用者と家族に相談して配置している。家族写真やぬいぐるみ、化粧品を持ちこまれている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の個々の身体状況や、今までに起こった事故、ヒヤリハットなどを考慮して、移動バーやコールマットなどの福祉用具を使用して		